

会 議 録 （要 旨）

会 議 名	第1回武蔵村山市市民協働推進会議
開 催 日 時	平成27年4月15日（水）午後6時 ～ 9時
開 催 場 所	教育センター集会室
出 席 者 及 び 欠 席 者	出席者：（委員）渡辺龍也、北口良夫、瀬口圭志、鴻田臣代、中村政義、本間由美子、前田啓子、山田行雄 欠席者：（委員）比留間毅浩 一般参加者：3名 （事務局）協働推進課長、協働推進課主査、協働推進課主事
報 告 事 項	報告事項 平成26年度第8回武蔵村山市市民協働推進会議の会議録について
議 題	議題1 平成26年度武蔵村山市協働事業提案制度実施事業報告会及び評価等について 議題2 事業評価について
結 論 (決定した方針、残された問題点、保留事項等を記載する。)	議題1 平成26年度武蔵村山市協働事業提案制度実施事業報告会及び評価等について 事業実施団体から事業の報告を行い、各委員から事業について質疑応答を行った。 議題2 事業評価について 次回の報告会終了後に評価を行う。
審 議 経 過 (主な意見等を原則として発言順に記載し、同一内容は一つにまとめる。) (発信者) □印：座 長 ○印：委 員 ●印：事務局 △印：提案団体 ▲印：市担当課 ◎印：一般参加者	報告事項1 平成26年度第8回武蔵村山市市民協働推進会議の会議録について ● 平成26年度第8回武蔵村山市市民協働推進会議の会議録について、修正等の連絡が無かったため、承認とみなし市ホームページで公開する。 議題1 平成26年度武蔵村山市協働事業提案制度実施事業報告会及び評価等について □ 議題1について、事務局から説明いただきたい。 ● -報告会の進め方について説明- (平成26年度武蔵村山市協働事業提案制度実施事業報告会) 団体名：武蔵村山市ハンドボール協会 事業名：ハンドボールトップアスリート等派遣指導事業 -実施団体による報告- 質疑応答 ○ 事業スケジュールについて、団体と市担当課で自己評価が異なる。団体の自己評価は3で、市担当課の自己評価は5となっている。

- △ 実際に事業を実施する時間と解釈して記入した。小学校の45分間の授業内で実施したので、時間が足りなかったと感じ評価は3にした。
- ▲ 団体とはスケジュールの捉え方が違っていた。担当課としては学校との調整については十分な時間が取れたと感じている。
- 決算書の各項目に、詳細な内訳が記載されていない。内訳を記載して再提出していただきたい。また、前年度に実施できなかった分の繰越金を活用したという報告があったが、繰越金を協働事業の経費に充当するのは不適切である。決算についてはしっかりと説明できるように整理していただきたい。
- 予算で保険料を計上していたが、決算ではゼロになっている。
- △ 当初は保険料が必要だと思っていたが、学校の保険が適用されるため、加入しなかった。
- 委託料の決算が予算を超過している。
- △ 消費税の増税分である。
- 自己評価では、業者への依存を課題としているが、今後どう改善するのか。
- △ より安価に委託できる業者を探すことを考えている。
- 委託する場合、複数の業者から見積りを取り、その中で最も安価な業者に委託するのが一般的なやり方である。
- △ スポーツイベント業者は数が少なく、情報も少ないため、複数見積りを取ることはしなかった。
- 事業を実施してから別の業者を探すのではなく、事業を計画する段階で検討するべきであった。また、業者へ依存していることが問題なのであり、安価な業者を見つけられれば良いというわけではない。
- ハンドボールを身近に感じられない人も多くいる中、子供達に広められたことは評価できる。今後の継続の方法について伺いたい。
- △ 業者を仲介せず、トップアスリートと直接交渉することができれば、費用を抑えることができる。その方法を検討していきたい。
- ハンドボールに初めて触れる子供達に、トップアスリートが指導することは適切なのか。高額な委託料が掛かることから、費用対効果についても考えなければいけない。
- 業者依存から脱却するために、協会のスタッフが講師を務めることはできないのか。
- △ トップアスリートを呼んでこそ、やってみるきっかけを与えられると考えている。
- ▲ 現在小学1年生から4年生を対象に、年20回程度ハンドボール教室を開催している。また、今後学校の授業でも取り入れられることが決まった。そのことから、市内の小学生にハンドボールが根付き、継続していく可能性は高いと考えている。
- 市として、ハンドボールを重点的に推進していく方針なのか。
- ▲ ハンドボールに触れることで、子供達に運動をする機会を与え、体力の向上やコミュニケーション能力を育むきっかけにしたいと思っている。ハンドボールだけを重点的に推進したいわけではない。
- 市の方針で推進しているわけではないのなら、なぜハンドボールなのかという疑問は残る。

団体名：特定非営利活動法人 むさしむらやま子ども劇場
事業名：ちびっ子名人育成プロジェクト
市担当課：文化振興課

-実施団体による報告-

質疑応答

- 協働事業として3年間実施してきたが、今後の継続性が不透明なのは問題である。別の補助金の確保について、もっと早くから考えておかなければいけなかった。
- △ 別の補助金を探しているが、単年制であることが多く、複数年に渡り補助金を受けられる制度が少ないのが現状である。
- 今後も補助金の利用に頼る限り、継続性は不安定であると言える。何らかの形で自己財源を確保しなければいけない。
- △ 放課後子ども教室は市の事業として実施しているので、参加費を徴収することができない。市民会館等での実施も検討しているが、放課後子ども教室に来てほしいという支援員の要望もある。
- 現時点で、今年度の資金が確保できていないが、今後の活動についてはどう考えているのか。
- △ 限られた資金の中で、継続していきたい。プロの指導も一度は行いたいと考えている。
- 努力次第で誰でも達成感を得られる事業内容であり、今後も是非継続していただきたい。道具の維持についてはどう考えているのか。
- △ コマは針の修理に100円程度掛かる。必要に応じて修理し、常に20～30個使用できる状態にしたいと考えている。
- 参加している子供達の年齢は。
- △ 小学1年生から6年生までの児童で、一番多いのは2、3年生である。
- 新しい物を購入するだけでなく、コマやけん玉を修理することで、子供達の物を大切にすることを育てることも検討してもらいたい。
- ゲームやインターネットが普及する現代において、子供達が昔ながらの遊びに触れ、心身を成長させられるのは良い取組である。
- デエダラまつりに参加した子どもの数は。
- △ 80名程度である。
- 決算書の各項目の詳細が記載されていない。単価や数量等の詳細を記載し、再提出していただきたい。
- プロを呼ばずに、団体のスタッフや支援員、上達した子供が教えることで事業を実施することはできないのか。
- △ プロの指導を受けられることが、子供達のやる気や姿勢に影響することもあり、できればプロを呼びたいと考えている。
- 3年間実施してきた事業であり、成果も出ているので、是非今後も継続していただきたい。
- 協働としての成果はどのような点か。
- △ 3年間実施してきた中で、支援員と直接調整ができるようになり、自立した事業実施ができるようになった。
- ▲ 市の担当課としても、子供達の大きな成長を感じている。協働事業が終了しても、継続していきたいと考えている。
- 協働事業として成果が出たのなら、今後は市の事業として取り入れ、予算計上をしても良いのではないか。

- △ 今後は保育園も対象にして拡大していけたらと考えている。
- 決算書の各項目に、詳細な内訳が記載されていない。内訳を記載して再提出していただきたい。

団体名：特定非営利活動法人 シニアメイトサービス
事業名：高齢者いきいき講座
市担当課：高齢福祉課

-実施団体による報告-

質疑応答

- 自己評価書において、団体と市の担当課で評価が大きく異なっている箇所がある。
- ▲ シニアメイトサービスとは、協働事業の実施以前から委託の関係があった。担当課としては協働事業で出前講座を重点的に実施してもらいたかったが、老人会や自治会との連携がスムーズに出来なかったこともあり、望んでいた成果が出せなかった。
- △ 老人会や自治会はそれぞれ実情が様々であり、対応を事前に考えるべきだった。
- 役割分担を明確に決めておく必要があった。今後は各自治会に対しどのように広めていくのか。
- △ まず本事業で連携することができた自治会との実績を重ね、それから他の自治会に対しアピールしていきたいと考えている。
- 担当課と団体とのコミュニケーション不足を感じる。
- 担当課は、出前講座ができなければ協働事業はできないと考えているのか。
- ▲ 出前講座以外の事業は既に実施しており、委託業務で実施していない地域に密着した事業を、協働事業で実施したいと考えている。
- △ 市が実施している介護予防講座は一度しか参加できないので、団体としては、同様の介護予防事業を継続していきたい。
- 各自治会は年度計画を立てるので、前年から話をすれば受け入れてくれるのではないか。
- 公共施設に来られない人も多くいると思う。地域に密着した活動を今後も継続していただきたいと思う。
- 協働事業を行わないということは、出前講座は行わないのか。
- △ 少しずつ実績を重ねながら続けていきたい。
- 自治会への出前講座だけでなく、地区会館等で実施しても良かったのではないか。
- カフェおとなりさんは、今後は回数の減少や規模の縮小をしながら継続していくのか。
- △ そのとおり。
- 介護予防事業の穴埋めとして実施しているのであれば、出前講座ではなくても良いのではないか。
- ▲ 地域に出向いて実施するというのが前提であった。
- 一人暮らしの高齢者も多い中、ニーズのある良い事業だと思う。協働事業ではなくなっても、引き続き実施していただきたい。
- 自治会の夏祭り等の場で団体をアピールし、今後の活動に繋がれたら良いのではないか。

	<input type="checkbox"/> 決算書の各項目に、詳細な内訳が記載されていない。内訳を記載して再提出していただきたい。 議題2 事業評価について <input type="checkbox"/> 本日の報告に対する評価は各委員で行い、次回会議で残りの2団体の報告を受けた後、5団体分の評価を行う。 -異議なし- その他 <input checked="" type="checkbox"/> 次回会議は平成27年4月16日(木)午後6時から、市役所4階401大集会室で開催する。
--	---

会議の公開・ 非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開 ※一部公開又は非公開とした理由 ()	傍聴者： <u>3</u> 人
-----------------	---	-----------------

会議録の開示・ 非開示の別	<input checked="" type="checkbox"/> 開示 <input type="checkbox"/> 一部開示 (根拠法令等：) <input type="checkbox"/> 非開示 (根拠法令等：)
------------------	---

庶務担当課	協働推進部 協働推進課 (内線： 242)
-------	------------------------

(日本工業規格A列4番)